

令和2年度学校自己評価システムシート (県立小川高等学校 定時制の課程)

目指す学校像 基礎学力を向上させ、豊かな心と自主的精神を育み、生きる力を伸ばす学校

重点目標

- 1 分かる授業に向けた授業改善と個に応じた学習指導により、基礎学力の向上を図る。
- 2 基本的生活習慣の確立と個に応じた生徒指導・進路指導により、自立した自己の実現を図る。
- 3 開かれた学校として地域と連携し、学校行事と体験学習の充実により、豊かな心を育む。

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (3 月 9 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	
1	<p>【現状】 複雑な家庭環境等により、今まで学校生活に馴染めなかった生徒が多い。また特別な支援が必要な生徒、他校から転編入している生徒も多く、学習意欲も決して高くない。</p> <p>【課題】 生徒が自ら自分の課題を把握して取り組むことができないので、生徒個々の状況に応じた支援が必要である。</p>	生徒が自立するために、基礎学力の定着と自らの課題に応じた学び方を確立させる。	<p>①分かる授業を実施するために、授業公開を行い、教科指導力の向上や、指導技術を継承する機会とする。</p> <p>②始業前や学期末の補習で、個に応じた学習指導により基礎学力の向上を図る。</p> <p>③プロジェクターやタブレットなどのICT機器を活用することで、生徒の学びを支援する。</p>	<p>①授業公開の実施と、職員研修会の実施回数。 成績不振者の減少。</p> <p>②補習等の実施状況。 欠点数の解消状況。</p> <p>③ICT機器の活用状況。 動画の配信、授業時にICTを使用している教職員数</p>	ICT等を活用して生徒の個々の状況に応じた学びを支援することはできたが、アンケートで授業の内容がわからない教科が多いと答えている生徒が増えている。 ①全定互見授業を実施し、職員の授業力向上に努めた。 ②欠点数1学期21(22)、2学期32(31)中途退学者1名(1)、カコ内は前年度。以下同じ。1学期の欠点数・中途退学者は減少した。 ③臨時休業中も含め、すべての教員がICTを使用する機会が増えた。	B	教科指導法について、教科の枠を越えた指導法を考えていく。 BYOD等も含めたICT機器の効果的な活用について考えていく。
2	<p>【現状】 多様な課題を抱えている生徒が多いが、学校では落ち着いた生活を送っている。 進路指導やキャリア教育を実施する上で、多様な課題を抱えている生徒が在籍している。</p> <p>【課題】 進路実現のために一斉指導だけでなく、個別指導を実施する必要がある。 在学中の就労を伸ばすことが課題である。</p>	新しい生活様式への対応と生徒が安全に学校生活を送れるよう、組織的な対応をする。	<p>①時間やマナーを守ること徹底させる。</p> <p>②各種アンケートや面談によって把握した情報を教職員間で共有する。</p> <p>③SC・SSW、巡回支援員等の外部機関と定期的に連携することで、より適切な対応を実施する。</p> <p>④各種講演会によって、生徒理解や組織的な対応の方法を学ぶ。</p>	<p>①遅刻者数の減少。</p> <p>②教職員間の情報共有。</p> <p>③外部機関との連携回数。</p> <p>④講演会の実施回数。</p>	生徒の課題解決のために組織的に対応することができた。 ①遅刻率5.9%(9%)、減少した。 ②概ねできている。 ③SSWについて定期的に連携することができた。 ④実施回数10回。講演会の内容については、生徒のニーズに応じた内容を精査していく必要がある。	A	生徒に適切な支援が行えるよう外部機関や教員間で連携する。
		個に応じた進路実現能力を育成するために学年ごとの進路目標に基づいた支援を行う。	<p>①個別相談や保護者面談の実施。SST・社会体験活動等を実施することで、多様な課題を抱える生徒に対応する。</p> <p>②支援教育の方法を取り入れた指導やハローワーク、就労支援センター等と連携した取組を実施する。</p> <p>③進学・就職希望者に対する個別相談、進路ガイダンス等の指導を充実させる。</p>	<p>①個別相談やSST等の実施回数。</p> <p>②在学中の就労実績、就労訓練、インターシップ、ボランティア活動の実施回数。</p> <p>③進路決定者数。</p>	進路指導については、進路実現できたが、就職指導については課題がある。 ①実施形態等を工夫することで個別面談1回、SST1回を実施した。 ②就職につなげるためのインターシップを1人当たり2日実施した。 ③2名の進路は決定したが、3名は活動中である。	B	多様な進路を実現することや進路指導の継承のため、4年間を見越した計画を立てる。
3	<p>【現状】 体験活動を積極的に取り入れ、参加した生徒は学校行事に前向きに取り組んでいる。生徒会希望者は減少傾向にある。 PTA活動等を通じて保護者・地域との連携を図っている。</p> <p>【課題】 生徒会を中心とした生徒が主体的に取り組むための体制づくりが必要である。 町の商工会等とも関わりを持つ。 PTA活動や学校行事への保護者の参加を促進することで、学校の活動を理解してもらう。</p>	行事に主体的に参加することで生徒の豊かな心を育む。	<p>①花壇・菜園整備等の実施による体験活動の推進を図る。</p> <p>②生徒会を中心とした行事運営と自主的活動の実践やコミュニケーション能力の向上を図るとともに、各行事ごとにアンケートを実施する。</p>	<p>①委員会の活動日数と作物の利用状況。</p> <p>②生徒会行事への参加率の向上と自主的な運営の実施とアンケート結果の分析。生徒会の活動日数</p>	行事への参加により豊かな心を育むことができた。 ①苗植え、草取り、収穫等の活動を4日間行った。 ②後期については、週1回定期的に活動することができた。アンケート結果から学年を越えて生徒が交流する行事が好評であった。	A	行事の充実のために、行事自体の精選や役割分担の明確化を目指す。
		PTA活動の周知や学校の活動の情報発信をすることで保護者や中学生に本校を理解してもらう。	<p>①PTAだよりの定期的な発行により定時制の取組や成果をPRする。</p> <p>②ホームページを活用した情報発信を積極的に行う。</p> <p>③中学校や保護者へ、説明会や学校訪問を通して本校の活動を周知することで、学校の活動を理解してもらう。</p>	<p>①理事会等で意見を集約することで、内容を充実させる。</p> <p>②閲覧件数、日誌等の更新状況。</p> <p>③中学校への訪問回数や説明会への参加状況。町と連携できたか。</p>	保護者や市町村と連携することで本校の活動を理解してもらうことができた。 ①PTAだよりを年5回発行し、定時制の取組を周知することができた。 ②週に2回程度更新した。 ③市町の関係課にも訪問することができた。説明会参加者延べ19組。市町村教育委員会や関係課にも周知した。	B	学校外への情報発信だけではなく、保護者への情報発信の方法についても検討していく。

学校関係者評価 実施日 令和3年 3月24日

学校関係者からの意見・要望・評価等

ICTを活用した授業には、意欲の低い生徒も食いついてくることが多い。ICT機器の効果的な利用は、とても大切であり、今後も力を入れてほしい。
他の高校も含め定時制高校卒業生のロールモデル集を作成し、多様な生き方と成功例を提示することをお勧めします。

進路指導では独立自活やAI時代を生き抜く力を身につけるような指導が必要だと思います。そのためには、芸術鑑賞や自然観察や多様な人との出会いの機会を設けることが学校側のアクションではないでしょうか。

保護者の生の声が掲載されていることが、生徒にとっても嬉しいのではないだろうか。

PTA ニュースから積極的な生徒の取り組みの様子が思い浮かびます。良い取り組みをされていると高く評価できます。

